

### ■開催概要

- シリーズ : 2023 鈴鹿クラブマンレース Round 4
- 主催 : 中日本自動車短期大学 (ARCN)・鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : AASC、ARC、KRHC、OCCK、チーム淀
- 競技 : JAF公認国際競技・準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数..... 122台  
FIT 1.5..... 10台  
FFチャレンジ..... 41台  
VITA ..... 21台  
CS2..... 12台  
フォーミュラEnjoy..... 19台  
ポルシェ スプリントチャレンジジャパン 2023 第7戦・第8戦...19台
- 開催日 : 2023年10月7日(土)・8日(日)
- 天候・路面 : 7日(土) 晴れ/ドライ 8日(日) 曇りのち雨/ドライのちウェット

### ■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2023鈴鹿クラブマンレースFinal Round
- 開催日 : 2023年12月2日(土)・3日(日)
- 主催 : OCCK
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ(2レース)、FIT、VITA、v.Granz 16c、フォーミュラEnjoy



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2023/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2023/clubman/)



午後に決勝が行われたVITAクラスのスターティンググリッド。昼前から降り出した雨の影響を大いに受けた

## 曇り空が一転、強い雨となった決勝レース、 FFチャレンジが惜しまれつつラストレース

鈴鹿クラブマンレース第4戦が10月7日(土)、8日(日)の両日にわたって、鈴鹿サーキットフルコースにて開催された。

2019年から始まったポルシェモータースポーツ公認のレースシリーズ「ポルシェスプリントチャレンジ ジャパン 2023」も2レース制で実施。世界最速のワンメイクレースとも呼ばれるカレラカップシリーズのステップアップカテゴリーにあたり、この日のエントリーは19台。第7戦、第8戦と2レースが行われ、GT3-1クラスの呉良亮が2連勝。今シーズン全勝という快挙を達成した。

そして、何といっても大きなトピックは2023年シーズンでの終了が決まっているFFチャレンジクラス最終戦の開催だ。1981年、鈴鹿サーキットでスタートしたシビックのワンメイクレースを源流とするFFチャレンジクラスは、実に40年以上という歴史を誇る。街乗り市販車をベースにしたこのカテゴリーは、モータースポーツを多くの人にとって身近な存在にしてきた。

そんなFFチャレンジクラスのラストランを見届けようと、強い雨にもかかわらず会場には多くのファンが訪れていた。参加台数も実に41台。久しぶりに参戦を果たしたドライバーから、シビックレースの魅力を知る20代のドライバー、さらに多くのチーム関係者が詰めかけた鈴鹿サーキットは、いつもとは異なる熱気に包まれ、シビックとドライバーたちの雄姿に多くの視線が注がれた。そうして、文字通りの最終戦となったFFチャレンジにおいて、最後のチャンピオンが決定した。

このほか、FIT 1.5 Challenge Cupも最終戦を前に早くもシリーズチャンピオンが決定することになった。そして、次回は2023年を締めくくる鈴鹿クラブマンレースFinal Round。開催各クラスともシリーズチャンピオンをめぐる激しい攻防に期待したい。



2023年で幕を下ろすFFチャレンジ。最後の表彰台に立った、左から2位の木村翔、優勝&最後のチャンピオンとなった松下裕一、3位のHIROBONの3人

## ■CS2 class

ポールポジションからスタートした岸本尚将がホールショットをゲット。3番グリッドスタートの関正俊は、いむらせいじをパスして2番手に順位を上げる。濱野隆一も3番手になると、いむらせいじは4番手へとドロップしてしまう。序盤から早くも岸本は独走態勢を築き始める。レースを盛り上げたのは8番グリッドスタートのAndrie Hartantoだった。

Andrieはいむらせいじと4番手を争うバトルを展開。レースはそのまま岸本、関、濱野の順でチェッカーを受けると、4位はAndrieとのバトルを制した、いむらせいじとなった。



#7岸本尚将は見事なポールtoウィンで勝利。2位の関正俊に11秒914もの大差をつけた



優勝は岸本尚将、2位は関正俊、3位は濱野隆一。上位3台は終盤、それぞれが単独で周回を重ねた

## ■FIT 1.5 Challenge Cup class

ここまで2連勝の西尾和早は2番グリッドからスタート。レースはポールポジションを獲得した清水悠祐が先頭で1コーナーへ侵入する。オープニングラップで杉原悠太の車両がクラッシュを喫してしまい、2周目からセーフティカーランとなる。セーフティカーランが解除されると、トップの清水に対して西尾がテールtoノーズでプレッシャーをかけ続ける。3番手を中西茂希が走行すると山内拓磨、RINA ITOの4番手争いが白熱する。レースはファイナルラップの逆バンクで西尾が清水をオーバーテイク。逆転で3連勝を飾ると、最終戦を前にシリーズチャンピオンを獲得した。



西尾和早はこの日、2番グリッドからスタート。ファイナルラップまで続いた清水悠祐とのバトルは見応えがあった



大逆転で勝利した西尾和早はシーズン3連勝。ひと足先にシリーズチャンピオンを決めた

## ■ポルシェ スプリントチャレンジ ジャパン 2023 第7戦・第8戦

午前中に行われた第7戦は、ここまでシーズン全勝を続ける呉良亮がポールポジションからスタート。だが、複数台のマシンのクラッシュが起き赤旗中断。レースは残り9周で再開される。しかし、レース再開と同時に雨粒が落ち始めると、雨脚は徐々に強くなる。2番手を走るKEN YAMAMOTOは呉を追いかけていたが、その差を詰めることはできず、呉がポールtoウィンを決めた。

第8戦はヘビーウェットの状態でスタート。ポールポジションは呉だが、オープニングラップをトップで帰ってきたのはKEN YAMAMOTOだった。呉は2番手、HISATEAが3番手を走る展開になるが、すぐさま2周目で呉は KEN YAMAMOTOをパスしてトップへ。驚きの快走を見せたのがGT4クラスの平安山良馬だ。平安山は18番グリッドスタートながら、次々と前のドライバーをパス。ついには2番手にまでつける。だが、呉とのタイムギャップは30秒以上と大きい。呉はそのまま逃げ切ってシーズン全勝を飾った。



レース開始時はドライコンディションだった第7戦。午後からの第8戦を含めて呉良亮の強さが際立った



第7戦、GT3-1クラスの表彰式。クラス優勝は呉良亮、2位はKEN YAMAMOTO、3位はHISATEAの順となった

## ■ポルシェ スプリントチャレンジ ジャパン 2023 第7戦・第8戦



第8戦、表彰台に登るGT4クラスの平安山良馬。最終的には総合2位でチェッカーを受ける大活躍を見せた

## ■VITA Class

ヘビーウェットでレースは開始。増本千春がポールポジションから好スタートを決めるが、序盤で大きな混乱があり増本は2コーナーでコースアウト。一時、2番手につけた大八木龍一郎もコースアウトを喫するとセーフティカーがコースインする。トップはTOMISAN、山谷直樹、小野耀平、備後博司、中里紀夫、大八木のオーダーになる。4周終了時点で再度のセーフティカーランになる。レースはセーフティカーランのまま、ファイナルラップを終えるとオーダーはTOMISAN、山谷、小野の順でフィニッシュ。ポイントランキングで独走していた大八木がポイントを獲得ならず。これで最終戦のタイトル争いは大八木vs TOMISANの一騎打ちの構図になった。



レースを制したのは2番グリッドのTOMISANだった。これで最終戦でのシリーズチャンピオン獲得も視界にとらえた



優勝はTOMISAN、2位に山谷直樹、3位は小野耀平。雨に翻弄されるハードなレースを制した

## ■フォーミュラEnjoy Class

樋尻勝利がポールポジションから好発進を決めてホールショットをゲットする。マイスターズ・カップのトップは9番グリッドの亀蔵だ。オープニングラップの1コーナーで複数台がコースアウト。これにより早くもセーフティカーランになる。

樋尻、山崎一平、安田知弘、東幸夫、伊勢谷貴史、亀蔵のオーダーでセーフティカーランは解除される。山崎と安田の2番手争いが激しくなると、トップの樋尻が逃げ始める。だが、樋尻は痛恨の反則スタートのペナルティが課され、実質のトップは山崎になる。安田は山崎を追うがとらえられない。レースは山崎が勝利、2位に安田、3位は東、マイスターズ・カップの優勝は総合5位の亀蔵となった。



2番グリッドスタートの山崎一平が見事、ウィナー。山崎は安田知弘のプレッシャーをはねのけた



優勝した山崎一平、2位の安田知弘、3位の東幸夫。最終盤にかけて、山崎の安定した走りが光った

■フォーミュラEnjoy Class(マイスターズ・カップ表彰)



マイスターズ・カップの優勝は亀蔵、2位はRyuu Mao、3位は田中伸彦。亀蔵は総合でも5位という結果を収めた

## ■FFチャレンジ Class

強い雨が降り続くコンディションのため、41台がエントリーした最後のFFチャレンジはセーフティカーランでスタート。ポールポジションの林大輔、神原聖一、HIROBON、開勇紀、松下裕一のオーダーでオープニングラップを走行してセーフティカーランは解除される。トップの林がコースアウトを喫すると、代わってトップはHIROBONとなるが、またしてもセーフティカーがコースインする。セーフティカーランが解除された直後の6周目、2番手を走っていた松下は1コーナーにアウトから侵入。S字でHIROBONをパスするとトップに躍り出た。3番手につけていた木村翔は開をパスして2番手になると、HIROBONを先頭にした3番手争いが混戦になる。レースは逃げ切った松下が勝利、自身9回目の同クラスシリーズチャンピオンを獲得。2位は木村、3位はバトルを制したHIROBONになった。



41台がエントリーした最後のFFチャレンジ。ハードなウェットコンディションでのレースになった



レースで優勝を飾り、シリーズチャンピオンも決めた松下裕一(中央)。2位は木村翔(左)、3位にHIROBONとなった

## Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った  
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

<Pick Up Team>

ファイナルを迎えたFFチャレンジ。  
荣誉ある優勝ドライバー

松下裕一選手 (RSファクター&ASクルー・WM・ATS)



最後のレースで優勝し、チャンピオンに華を添えた松下選手。

**Q: 最終戦ということで観客も多く、注目されたレースになりました。**

「久しぶりに帰ってきてくれたドライバーも多かった。若い子はSNSで仲間に告知してくれたみたいです。みんなで盛り上げることができて良かった」

**Q: 6周目でHIROBON選手をパスしてトップに立ちました。**

「前を走るHIROBON選手がやや苦しそうに見えました。仕掛けるなら早めに勝負しようと思いました」

**Q: 盛り上がった最後のレースでシリーズチャンピオンも決めました。**

「自分が勝てたこと以上に、たとえばHIROBON選手は鈴鹿を同じ頃に走り始めた同期のようなもの。それに木村翔選手といった若い子たちもめっちゃくちゃ速かった。みんなで最後に盛り上げるレースにできたことが一番うれしいです」